

光市医師会報

昭和59年10月発行

No. 145



My car シリーズ (1) Audi B-BY (赤)
竹中 会長

光市医師会

医師会月間行事

9 月度理事会及び県医学会総会準備委員会

1. 昭和59年9月11日(火)午後7時30分～
 2. 光市医師会館
 3. 理事会(報告事項及び協議事項)
 - (1) 健康診査の検査項目に関する調査(福本副会長)
- 医師が関与する昭和59年度健康教育実施(予定)調
- (2) 光三師会会費徴収及び行事について(福本副会長)講演会、親睦会を行いたい。
 - (3) 学校医研修会・学校保健研修会の件(福本副会長)
 - (4) 健保法改正に伴う説明会開催の件(中村理事) - 県医の説明会が20日にあり、9月25日例会で説明会を持ちたい。
 - (5) 光市医師会球技大会、親睦旅行の件(高橋理事) - 例年の順番通り、バレーボール大会を行う。日時10月21日(日)
 - (6) 産業医 - 10月例会の後で集りを持つ。
 - (7) 校医辞退 - 田中信彦先生の周防小学校の校医辞退願いに伴い、光武先生推薦
 - (8) 周南医学会 - 60年度は下松市
 - (9) 対癌協会入会の件
4. 県医学会総会準備委員会

60年6月23日予定の県医学会での講演は、難病をテーマにしたいので、光医師会で適当な疾患の選択をし、59年9月末～10月始めに県担当理事の光に来られた時に、話を決めたい。

9 月度月例会、研修会

1. 昭和59年9月25日(火)午後7時30分～
2. 光市医師会館

3. 月例会(報告事項及び協議事項)
 - (1) 健保改正点の説明(中村理事)
被用者保険本人の給付率改正・退職者医療制度について。
 - (2) 光市国保保険証の切り替へに関する説明(福本副会長) - 10月1日より新保険証となる。
 - (3) 球技大会について(高橋理事)
10月21日(日) バレーボール大会
4. 研修会 「糖尿病の治療」 光市立病院大久保 内科医長 - 糖尿病の成因、分類、治療について。
光、下松合同保険研究会

1. 昭和59年9月13日(木)午後7時～
2. 下松市民ホール

○医師会史編纂委員会

昭和59年9月18日(火)午後7時30分 医師会館

○光市医師会史編纂委員会による「先輩諸先生の話聞く会」。

昭和59年9月27日(木) 午後2時～

金久別館 出席者 前田、田尻、高畠、河村、松村、大野、竹中、福本、中村(国)、藤原各会員、事務局浜本



象牙の聴診器

とみえ さとし

久しぶりに、机の引き出しを整理して居ると、今頃は、使う人も居無くなった象牙

の聴診器が出て来た。ゴム管は朽ちてひび割れ、ぼろぼろになっているものの、象牙の部分は、使い古るされて、あめ色を呈している。触れて見ると暖みを伝えてくれる。

昭和二十七年五月、国家試験が終って、山陰の小都市の病院で、私が外科医としての第一歩を踏み出した時、内科のMO先生が下さった聴診器である。当時、私が使用していたのは、プラスチック製の安物であった。MO先生が何故、それを下さったのか、良く覚えて居ないが、医者になったお祝いに下さったのであろうか？。

あめ色の一寸小さめな象牙の聴診器は、昔を思い出させてくれる。

学生時代、同病院に数年出入りしていた。最初の頃は痰を染めては、一日中、結核菌を探して居たが、その内、外科のMI先生の手術の手洗いをさせて頂く様になった。当時流行した胸廓成形、京大の長石教授の称えられた樹脂球充填術の手伝いをやり、時には、アッペやマーゲンの鉤引きをさせて頂き、色々な事を教えて頂いた。古い病院なのでTBの入院が多かった様に記憶している。

学校を卒業する前の年の事である。MI先生が、学会へ出掛けられるので留守番を頼まれた。小遣い稼ぎにと、たいした事も出来ないくせに、見様見真似の包交や、処置を施す事で引受けた次第である。今頃の様に、患者も多くなか、適当に誤魔化して二日間を無事に過した。やれやれ、これで終わりかと、ほっとして家へ帰ったら、夜、呼び出しが掛って来た。飛んで行って見ると、内科のMO先生、思案顔で待っている。

アッペが破れたパンペリの患者である。「今からオベをせねばならないが、どうしよう？」「明日まで待てないし。」と悩んで居られる。当時、その町には、メスを持たれる先生は、二人しか居なかった様に記憶している。今とは、雲泥の差である。今更、他の病院に送る事も出来ず、「富恵君、やってくれますか？」と私に相談である。学生の方で、とても自信は無い。「いや、駄目ですよ。」と、お断りしたものの、MO先生はしつこく勧めてくる。側のレントゲンのF先生も、「戦地で、鉤を引いた事がありますから、私も手伝います。」と勧める。最後にMO先生、「責任はすべて私が負います。」の一言に励まされて、手術を引受ける事に決定する。

ベテランの機械取りの看護婦さんに、せかされ乍ら、ルンバール。幸いうまい工合に入って、十分な麻酔が得られる。「宜敷く御願います。」と言って、メスを入れる。腹腔は、膿で、だぶだぶである。さあ、アッペをと探しても何処にも無い。あっちを見たり、こちらを引張ったりで、探すは何処にも無い。時間はどんどん過ぎ、汗は出るは、眼鏡は曇るは、頭はかっかして来るはで、どうにもならない。鉤を引いているF先生も汗だくである。側に立って居るMO先生も心配げな顔で覗いている。ええ、ままよと、汚れた手を洗い直し乍ら頭を冷やす。そうそう、松本教授（亡くなられた山大の外科の教授）の臨床講義で、「充分に皮膚を切って、ゆっくり見られる様にする。」と言う言葉を思い出した。再び、皮膚切開を拡大して、解剖の図を思い出

し乍らテナヤを探す。やっとテナヤが見つかり、それをたどると先にアッペが鎮座している。穿孔のある、ベラークの附いたアッペである。やれやれと、一安心。MI先生のやっている通りに切除。当時、断端をパクレンで焼いて居たので、それもその儘行い、煙草縫合で閉鎖する。次は、食塩水で腹腔を洗滌し乍ら吸引。当時の考えで、ばい菌が居るからと、テラマイの液を撒布、ドレーンを挿入して、創口を縫合、手術終了。ほっとして、MO先生の顔を見るとこれ又、安堵の様子である。両先生に「有難う御座居ました」と深々、頭を下げた事を想い出す。

ルンパールもうまい工合に効いてくれたし、アッペもどうやら取れたしで、私の手術第一例目は成功裡に終わった。

今、考えると、全く医事紛争ものである。「全責任は、私が取りますから。」と励ましてくれたMO先生の事を想い出す。

翌日、学校へ引き返へしたが、暫くして、患者は、無事退院したとの報告を受けて、やれやれと思った次第である。

それから数ヶ月して帰省、学生服を着て郵便局へ行くと、その患者が窓口に坐っているではないか。怪訝そうな顔をして、私を見ている。手術をしたのが、まさか、学生だと思はなかつたであろう。私は知らん顔をして居た。世の中には、似た人も居るものだと思ったに違いない。

三十数年前の出来事である。医事紛争ものの手術で、私を見守って下さったMO先生はもう居ない。聴診器を触り乍ら、先生の御冥福を祈っている次第です。

My car シリーズ(1)

我が家の車 竹中 昭二

昭和36年に運転免許を取得して後、所謂オーナードライバーとなって今の車が5台(代)目になります。1台あたりの附合の期間は平均4.6年になる計算です。

現在の車は、アウディ、B-BY。排気量は1600、昭和53年11月以来の附合ですから丸6年になります。現在走行料は36000料です。1年あたりの平均走行料は6000料ですから医師会の先生方の中では少い方の走行量ではないかと思っています。色は赤です。これは家内が選定したのですが、車の型がおとなしいので、色は派手にしようと言う事だった様です。購入当初は、自分の白髪頭と車の赤が何となく不似合な様な気がしておりましたが、馴れとは不思議なもので、今は何ら違和感なく乗っております。車自体、ボデーは割合堅牢で、乗心地も、まあまあですが、ハンドルがパワーステアリングでないので、堅くて重くて切り返しや、車庫入れは大変です。殊に狭い駐車場に割り込んで駐車しなければならない時は苦勞します。しかし人間でもなんでも一長一短がある様に、車にも一長一短があるものだから、或程度は我慢すべきではあるまいかと思って欠点には目をつぶって乗りまわしている昨今です。

発行所 光市医師会
TEL 0833 72-2234

発行者 竹中昭二
編集者 会報編集委員会

印刷所 光市御崎町
中村印刷株式会社